

第 197 回 都市懇サロン レポート	『地域包括ケアと柏市のまちづくり』		
講 師	柏市都市部都市計画課統括リーダー 梅澤 貴義氏	開催日	平成 27 年 12 月 17 日 (木) 18:00~20:00
講 師 プロフィール	平成 7 年 4 月 柏市入庁 スポーツ課、市民課、保健福祉総務課、福祉活動推進課、福祉政策課、を経て平成 27 年 4 月より現職。 この間、地域の保健、医療、福祉を総合的に推進する「柏市地域健康福祉計画」の策定、東京大学、UR 都市機構と協働した「長寿社会のまちづくり」施策等の推進に関わる。 現在、福祉部局と都市部局が連携した拠点型サービス付き高齢者向け住宅の誘致による要介護高齢者の住まい確保施策を推進。		
お話の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括ケアシステムとは、団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年を目処に、重度な要介護になっても住み慣れた地域で人生の最後まで住み続けることができるシステム。柏市でも、人口の減少の影響は少ないが、高齢者の人口増加が予想されているため、取組を行なっている。 ・ UR 豊四季台団地をフィールドワークに東京大学・UR 都市機構・柏市で研究会を発足し、高齢社会のまちのあり方を実践している。 ・ 在宅医療を推進するための取組を行なっている。取組の一つに団地内にサ高住に様々な医療・介護サービスを組み合わせた地域包括ケアのモデル拠点の整備を行っている。 ・ 生きがい就労の創成として、従来のシルバー人材センターになかった仕事の開拓（高齢者による保育補助や介護補助など）を行い、新たな就労モデルを創出している。 ・ 柏市の立地適正化計画は、各都市機能を連携し多様性のあるまちづくりを目指し検討を行い、3 カ年かけて検討する予定。 		
意見交換 の概要	<p>【豊四季台団地の事例について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊四季台団地の再生にあたっては、地区内を工区分けし、工期をずらすことで、幅広い年齢の居住者獲得に繋がっている。 ・ UR は戻り入居希望の量に合わせて居住施設を建て替え、残った土地を分譲した。分譲地を地区内の中心に配置し、サ高住を立地させることで高齢者から好評を得られた。 ・ サ高住があるからといって、若者からの人気は低いわけではない。柏駅から近く、公共交通の利便性が良いことから、若者の入居も続いている。 ・ 団地再生にあたり、施設の建設費は殆ど各事業者に負担していただいたため、市は主にランニングコスト程度の負担しかしていない。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 立地適正化計画を策定する上では、市町村を跨いだ広域連携の視点も重要と考えられるが、中々難しい課題である。 ○ 福祉分野では、サービスや公共施設等をどこに集積させるかという考え方は存在せず、いかにサービスを連携・充実させて地域の課題に対応していくかという考え方に重きを置いている。 		
記録者の ひとこと	<p>・ 高齢社会への取組として地域包括ケアシステムの仕組みとまちづくりをうまく組み合わせて、事業を推進していた。住み続けられるまちづくりの一つの事例として参考になった。 ≪都市懇サロン運営部会 委員 島津 雅充≫</p>		